

2024年7月29日

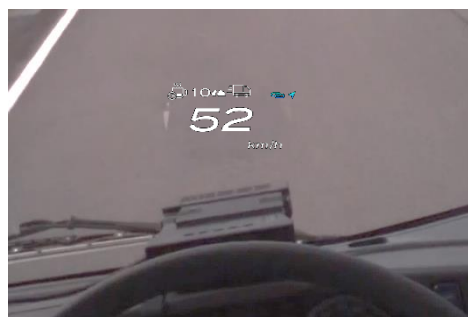
マクセル株式会社

## マクセルが NIPPON EXPRESS ホールディングスと共同で物流トラック向け ガラス投写型ディスプレイの安全性について実証実験を実施

マクセル独自の映像光学技術で物流業界の課題解決を支援



物流トラック向け BM-Display 外観イメージ



実証実験での BM-Display 表示イメージ

マクセル株式会社(取締役社長:中村 啓次/以下、マクセル)は、2023年8月に開発した Bright Mirror Display(以下、BM-Display)を応用し、物流業界の安全性の課題解決に向けた、物流トラック向けガラス投写型ディスプレイ(以下、物流トラック向け BM-Display)を開発し、NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社(代表取締役社長:堀切 智)と安全性の定量評価を目的に実証実験を実施しました。

マクセルは、2021年4月より乗用車向けの AR-HUD\*1 を量産しています。物流トラック向け BM-Display は、AR-HUD で培った高効率なバックライト技術をベースに製品の小型化(約 0.9L)と高輝度化(10,000cd/m<sup>2</sup> 以上)を実現し、これまで搭載できなかったトラック、バス、電車など垂直に近いフロントガラスにも投写することができます。

2024年5月より、マクセルは NIPPON EXPRESS ホールディングスと共同で、物流トラック向け BM-Display を物流トラックに搭載し、運転時の視点の移動量、移動時間、視点範囲などを定量的に評価しました。評価の結果、BM-Display を搭載することで、搭載しない場合に比べ、視点移動量の低減(約 37%低減)、視点移動時間の短縮(約 39%短縮)、BM-Display の表示位置がカーブ時などを含めた運転中の視点移動範囲にあることから、運転時の負荷低減に繋がることがわかりました。今回の定量評価結果を基に、とくに新人ドライバーなど不慣れなドライバーや高齢ドライバーの運転をサポートし、雇用の確保、安全性の向上、業務効率の改善など、物流業界の課題解決に向け早期製品化をめざします。また、バス、電車、重機などにも展開し、商用車全体の安全性向上をめざしていきます。

## ■物流トラック向け BM-Display 概要仕様

項目	仕様
視野角(H×V)[deg]	4.4×2.0
セット容積*2 [L]	約 0.9
解像度(H×V)[pixel]	800×480
質量[kg]	0.6

マクセルは今後も、独自の映像光学技術で新しい価値を創出し、社会の安心安全に貢献していきます。

\*1 AR-HUD:Augmented Reality(拡張現実) Head-Up Display

\*2 セット容積:車両形状や画面サイズによりセット容積数値は変わります。

## ■HUD の製品ページ

[https://biz.maxell.com/ja/display\\_equipment/ais\\_index.html](https://biz.maxell.com/ja/display_equipment/ais_index.html)

## ■製品に関するお問い合わせ先

マクセル株式会社 新事業統括本部

お問い合わせフォーム: <https://biz.maxell.com/ja/contacts/##display>

以上

---

ニュースリリース、お知らせに記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、  
発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日時点のものです。  
予告なしに変更され、発表日と情報が異なる場合もありますので、あらかじめ  
ご了承ください。

---